

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	慶應義塾大学、京都大学		
拠点のプログラム名称	市場の高質化と市場インフラの総合的設計		
中核となる専攻等名	経済学研究科経済学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 吉野 直行	教授	外 2 2 名

[拠点形成の目的]

21世紀COEプログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」(以下、21COE)では、拠点リーダー吉野を中心に、「現代経済の健全な発展・成長には高質な市場が必要だ」という新しい理論(市場の質理論)を提唱し、実証した。この理論では、**アメリカの住宅ローン市場におけるサブプライム問題、インターネットバブル崩壊後のアメリカで明らかになった不正企業会計など、現代経済の多くの問題が市場の質の低さに起因する**とみる。この認識のもと、家計行動のパネルデータを構築し、理論と実証の両面から研究を行い、市場の質理論を確立した。研究員等の多数の論文刊行など、教育でも大きな成果をあげ、中間評価でも高い評価を受けた。また、海外の多数の大学や組織と協力関係を築き、広範囲な国際ネットワークを形成した。

本拠点では、21COEの活動を超え、拠点リーダー吉野のもと、市場そのものを内生的に捉える新しい経済学的視点を確立し、現実の経済における市場高質化のダイナミズムを明らかにする。そのために、**法律、制度、組織、文化、倫理、慣習等、市場を取り巻く様々な要素の総体を市場インフラと呼び**、市場の質と市場インフラの動学的関係を解明する。市場や市場制度に関する既存理論は、完全競争という理想的な状態と現実の市場との直接的比較(静学分析)に基づくことが多い。しかし実際には、一朝一夕に完全競争に転換できる市場は少ない。本拠点では、質の異なる様々な市場が完全競争市場を一方の端点としてスペクトラムを形成し、現実の市場は、市場インフラの変化とともに、スペクトラム上を内生的に少しずつ移動するとみる。本拠点の経済学上の目的は、この過程を理論・データ・実証の**総合的**視点から解明し、市場インフラの**総合的**な設計(コーディネート)により漸進的な市場高質化を促すことで経済が健全な発展・成長と遂げる道筋を解明することにある。そのためには市場の内生的変化を適切に捉えた高質なデータが欠かせない。本拠点では、動学的情報を提供する企業パネルデータを新たに構築し、21COE以来の家計パネルデータに連動させ、個別市場の実情に即して供給と需要の両面から高質化のプロセスを解明する。パネルデータが明らかにする知見を財政・金融、労働経済、法と経済学、企業制度、国際経済、歴史などを含む幅広い研究で補強し、「市場インフラのコーディネート」という事前のかつ間接的な手法で市場高質化を図るという新しい政策理念の有効性を立証する。さらに、現実 に即した政策設計や提言を積極的にを行い、この政策理念を社会に定着させる。

同時に、将来にわたって本拠点の研究を発展させ、市場高質化を牽引する若手研究者を多数育成する。21COEの国際ネットワークを拡充し、市場の質という視点から理論、実証、データ構築、政策設計・提言の総合的な国際教育研究拠点を構築する。こうした活動を通じて、高質な市場を有する経済の構築を目指す。

[拠点形成計画の概要]

本拠点では、このような目標のもと、高度専門教育をシステム化し、旧来型の徒弟制度的教育を一新する。経済学研究科、商学研究科、京都大学経済研究所と協力し、開かれた教育研究システムを導入し、拠点のテーマに関わる演習や講義を設置し、**教育の達成目標と学生が身につけるべき必須能力を段階的に明示し、教育効果をきめ細かく点検**しながら、教育研究を行う。国際的に活躍する研究者を事業推進担当者に結集し、内外の一流研究者を招聘し、海外経験の蓄積機会を組織的につくる。ニューヨーク、ロンドン、北京に常設された慶應の海外拠点や本拠点の国際ネットワークを最大限活用し、優秀な研究員や留学生を発掘し、国内でも幅広く研究員を募り、国際的な環境で市場の質研究に携わる、優秀な若手研究者、Ph.D. を輩出する。

市場の質の理論と実証を統合した新しい経済政策の提唱者として国際的な影響力を持つ吉野を拠点リーダーとし、4つの部門が密接に連携して教育研究を行う。**理論開発部門**:市場の質の提唱者である吉野を中心に「市場インフラのコーディネート」を通じた市場高質化という経済政策理念を確立する。**パネルデータ設計解析部門**:我が国のパネルデータ設計解析をリードしてきた樋口を中心に、市場高質化の解明に向け、新たに企業データを設計・構築し、21COEからの家計データと連動させ、実証分析を行い、政策提言の基礎を作る。**応用・実証分析部門**:吉野を中心に、個別市場、企業制度、法と経済学、国際経済、経済発展、歴史など幅広い分野の研究でパネルデータによる実証分析の知見を補強する。**政策設計・提言部門**:吉野が中心となり、市場高質化という本拠点の政策理念を根付かせ、日本の経済力の回復や世界経済の発展に貢献する。

[京都大学経済研究所との連携]

本拠点は京都大学経済研究所と連携して、市場の質に関する国際的な教育研究拠点を形成する。21COEでは、京大21COEプログラム「先端経済分析のインターフェイス拠点の形成」と協力し、共同研究、テレビ会議システムによる合同演習、*International Journal of Economic Theory* の共同発刊、国際学会の共催など、教育と研究の両面で大きな成果を挙げた。また**拠点リーダー吉野と京大西村は日本経済学教育協会を立ち上げ、2002年から経済学検定試験を開始し、経済学教育に大きく貢献してきた**。本拠点の連携はこうした京大との強固な協力関係の上に成り立つ。本拠点では、**非線形動学・複雑系経済学の権威である西村・藤田**など、京大経研の国際経験の豊かなスタッフの協力を求め、同時に、本拠点の国際ネットワークを京大経研が培ってきた国際的ネットワークと融合させ、市場の質の教育研究に関する国際的教育研究拠点を形成する。**慶應大学と京都大学は全学的な協力関係の確立を視野に入れ、経済学などの分野で連携協定を結び、共同の教育研究体制を形成しつつある**。慶應の細田と京都の西村はこの連携推進の中心メンバーであり、慶應・京都ともにグローバルCOEでの連携に向けた全学的な支援体制を整えつつある。

機 関 名	慶應義塾大学、京都大学
拠点のプログラム名称	市場の高質化と市場インフラの総合的設計
[拠点形成の目的]	
<p>本拠点が掲げたテーマ「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」は斬新であり、かつ意欲的で、市場の質という視点からの分析は新しく、評価できる。また、塾長を始め、大学からの支援体制も高く評価できる。</p> <p>人材育成面においては、カリキュラムはかなり充実しており、評価できる。ただ、国際的研究者育成などの支援体制については、更に明確にすることが望まれる。</p> <p>研究活動面においては、21世紀COEプログラムで一定水準の研究成果を挙げており、それを踏まえた今回の研究活動計画は、比較的明確であって評価できる。特に、パネルデータ分析をはじめとする実証分析研究については、これまでの実績は高く評価でき、今後の成果についても大いに期待できる。しかしながら、理論面との接合については、鍵概念である市場の質の意味を明確化して、研究・教育の両面の総合化を工夫することが必要である。</p>	